

H23. 6. 21 第 9 回学校適正化検討委員会（視察研修）報告

【出席委員】

水本徳明 山口良元 中川 稔 小林義治 星野広幸 福田智彦
西村浩一 鈴木美樹 中島 淨 飯島利武 沼田マサ

【欠席委員】

野村武勝 中村 強 矢口忠衛 小仁所浩 立原幸子 邊見亜津子
竹内昌信

【教育委員】

中村三喜 鶴町庄二 澤島照子 沼田 新 本田仁子

【事務局】

小松修也 成井修也 佐々木浩 吉田江梨子

視察 1 水戸市立国田小中学校（水戸市下国井町 2395-1）

○学校長あいさつ（佐藤隆文校長）

県内唯一の小中併設校であり、今年 17 年目を迎える。

原点は、①人と人とのかかわりを広げる

②義務教育 9 年間の一貫性をもった教育を行う

③地域と一体となった学校をつくる

「小中一貫の創造」を目指し、取り組んでいる。（小中一貫→9 年一貫という言葉に変えた。）9 年一貫教育は自然なものにとらえている。

小中一貫校は法律的な位置づけはない。単学級の小規模校もあれば大規模校もある。校舎が合体しているものもあれば、離れているものもある。

○学校概要説明（小森教務主任）＜パワーポイントを使っての説明＞

教育目標：9 年一貫教育を通して、人のために役立つ人間を育成する国田教育を推進する。

組織目標：9 年一貫教育を通して、子ども一人一人に「確かな学力」を身に付けさせる。

今年度の 7 つの重点：

- ・全児童生徒の名前と顔を覚え、子どもを鍛え合い、支え合う。
- ・教材研究、教科担任制や TT、少人数指導の効果的な導入をもとに個に応じた指導を展開する。
- ・元気な歌声が響く機会を多くする。

- ・中学校で弱かった所をすぐに小学校で強化できること、TT を多様に組めること。
- ・小さい子と関わるなかで思いやりの心が育つ。
- ・中1 ギャップがない。(不登校ゼロ)
- ・反社会的指導(タバコ、万引き等)が全くない。

Q. 少人数の良さと課題について

A. 良さ：人間関係が良好。心が安定している。落ち着いている。

課題：切磋琢磨する機会が少ない。

Q. 中途転出入はどのくらいか。

A. 小学校に3名，中学校に1名の転入。転出はない。

Q. 登下校はどのようにしているのか。

A. 小学校は集団登下校，中学校は自転車で登下校している。小と中は別に登下校している。

Q. 中学校の教員は小学校にTTとして出ているが，負担は大きくないのか。

A. 技能教科の教員が中心にTTとして小学校の授業に出ている。時数がだいたい同じになるように時間割を決めているが，理科教員の負担は大きい。また，多くの学年の教材研究をしなければならないのは大変である。単学級で時間割のしぼりが少ないので，今のようなTT体制を組んでいると思う。学級数の多い学校はこのような体制をとるのは難しいだろう。

Q. 小6年終了後に別の中学校に行くというケースはあったか。

A. 今までにはない。中2で「部活動が少ないから」という理由で私立に行った生徒はいる。

Q. うまくいったこと，いかなかったことは何か。

A. はじめは地域で反対していたが，教育委員会との話し合いや集会を開くことでだんだんと理解が得られた。

Q. 小中教員連携での良い点・悪い点は。

A. はじめにあった小中間での壁は，「1つの学校」という意識を持つことでなくなっている。小中連携は小中教員同士の人間関係が重要であると思う。

Q. 入学式は小中合同であるが，卒業式も合同でやるという考えはあるか。

A. 合同でやるというまでには，保護者の理解を得る必要があるので，焦らずに段階を踏んでいきたい。卒業式の場合，時期も違ってくるので，様子を見ている段階である。

Q. 中1 ギャップはないが，高校に入学してからはどうか。

A. ほとんど問題ない。他校との交流に力を入れているからかもしれない。

視察 2 常陸大宮市立緒川小学校（常陸大宮市上小瀬 751）

○常陸大宮市教育長あいさつ（上久保教育長）

- ・常陸大宮市の学校統合は、中核校を置いて、そこに統合していくという形を基本としている。
- ・校歌や校章にはお金をかけずに、自分たちの手で作っている。
- ・学級の数が増えることで、競争意識が生まれ、良い効果が出ている。
- ・人事面で問題がある。教員は別の学校か他市町村へ異動となるが、異動の際には若手の教員が好まれるので、どうしても年配の教員が残ってしまい、年齢層が高くなる。
- ・統合のための会議が非常に多く、職員の負担が激増する。
- ・スクールバスの運行に経費がかかる。
- ・廃校跡地の利活用を考えなくてはならない。
- ・統合ははじめからうまくいったわけではない。最初は反対者が多く、統合して1年が経過してから理解されてきた。
- ・学校統合にあたっては、最初の信念を曲げないこと。そして、ぐらつかないことが肝要である。

○統合委員会に係る組織図についての説明

○小中学校再編のスケジュールの説明

○学校統合に関する住民の反応（元統合委員会委員長）

緒川地域は、小瀬第一小と第二小が統合して小瀬小学校になったり、八里小が分校と統合したりと統合経験があるので、住民の反応が、初めての地域よりも違うと思う。運動会が少人数でかなり寂しかったこともあり、「やむをえない」という意識が強かったため、拒否する住民は少なかった。

○事前質問への回答（緒川小学校長）

問①. 学校統合後の地区コミュニティ（地域住民）との関係について何か変化はありましたか。（主に八里小学校区について）

→ 小瀬小が中核校となったため、八里小側は学校がなくなるという気持ちがあった。また、スクールバスを利用するようになったために、子どもたちが登下校する姿が見られなくなり寂しいという声があった。

問②. 旧八里小学校の児童の通学についての対応は（スクールバスの導入等）。

→ もともと大多数がバスを利用していたが、登下校にかかる時間は倍になってしまった。家を出る時間も早くかわいそうな面はある。また、歩かな

くなり体力が落ちる、肥満が増加するという懸念がされるため、毎日5分間走を実施し解消している。

問③. 学校行事等への保護者の参加状況（統合前との比較）は。

→ 統合前も後もほぼ100%で変わりなし。特に、八里小の保護者については、学校統合後の子どもの学校生活について関心が高くなった。統合をきっかけに、保護者どうしもいい方向になっている。

問④. 環境の変化について、子どもたちの反応はどうか。また、なかなか順応できなかった児童に対して学校で何か対策はとりましたか。

→ 発達障害の児童、3~4年生で少し落ち着かない様子が見られたため、TTや加配で教師の数を増やして対応した。また、統合前から双方で交流授業を実施していたため、違和感なく移行できた。

問⑤. 統合して児童の様子が変わった点がありますか。（良い面、悪い面）

→ 良い面：統合して活気が出てきた。学校行事、豊かな体験や競い合うことが良い刺激になっている。いろいろなタイプの友達と付き合えてよい。

悪い面：下校時間がかかるため、放課後の時間がとれない。また、家庭訪問も大変。

問⑥. 学童保育の対応は何か変わりましたか。

→ 統合前、八里小では学童保育を行っていなかった。統合後は、現在の利用者が50名で、利用者は大幅に増加している。利用時間は4時30分までとなっている。

○質疑応答

Q. 先生方にとって、統合はどうだったのか。

A. 小瀬小と八里小から半数ずつ緒川小に来た。先生方で1, 2年前から準備の会議等で何度も顔を合わせているため、コミュニケーションは図られていた。皆「小瀬でも八里でもない新しい学校をつくる」という高い意識を持っていた。また、地元の校長を配置するなど、人事は地元の教員を中心に配置した。

Q. スクールバスの運行費用はどうしているのか。

A. 市費と県補助金でまかなっている。県の措置で5年間。スクールバスは中核校以外の子どもを乗せるという原則でやっている。利用者負担は一切なし。予算面では、統合したからといって大幅に削減できるものではない。

Q. スクールバスを運行していると、先生方の登下校時の仕事量が大変だと聞くが、どうか。

A. 1ヶ月前に下校時刻を設定し、保護者に知らせている。変更があった時には、緊急メールで保護者に配信している（100%近くが受信）。特に負担はない。